

松本エリア

松本市、塩尻市、安曇野市、麻績村、生坂村、山形村、朝日村、筑北村

お問い合わせ先 松本地域振興局農地整備課 ☎0263-40-1919

あつみの たてせき よこせき 安曇野の縦堰と横堰

【所 在】松本市、安曇野市
【築 造】平安時代～江戸時代



「安曇野水記」より転載

安曇野市や松本市西部の水田地帯は、幾つもの河川によって形成された複合扇状地に広がっており、立田堰、温堰、鳥羽堰、飯田堰、田多井堰など、古くは平安時代から鎌倉時代にかけて開削されたといわれている水路が多数あります。

これらの水路は、傾斜に沿ってスキーの直滑降のように上から下へ縦方向に流下して水田へかんがいしていることから、「縦堰」と呼びます。縦堰によりかんがいされる水田は、扇状地の扇端部に近い平坦な地域に広がっており、扇状部は用水を導くことができず不毛の地となっていました。

人々の長年の願いであった扇状部に水田を拓くために造られたのが、等高線に沿って緩やかに流れる「横堰」です。1654年の矢原堰の開削を皮切りに、新田堰、勘左衛門堰、拾ヶ堰、掘廻堰が開削され、この地は一大穀倉地帯へと発展しました。横堰は、それまでに開削された幾つもの堰や河川をも横切らなくてはならず、極めて高い測量技術や土木技術が求められ、これらの堰を開削した先人たちの偉業は今も語り継がれています。

1 じっかせき 拾ヶ堰



MAP E-3

【所 在】安曇野市、松本市
【築 造】文化13年(1816年)
【管理者】長野県拾ヶ堰土地改良区

江戸時代後期の1816年、大庄屋の等々力孫一郎らは10の村々に約1,000haの水田を開田するため、奈良井川から取水し、複合扇状地の標高約570mの等高線に沿って3,000分の1という緩勾配で水を導くことを考案しました。近代的な測量器や土木技術がない中で、わずか3ヶ月という驚異的な早さで築造するという偉業を成し遂げ、安曇野が県下有数の穀倉地帯として発展する礎を築きました。



3 かんざえもんせき 勘左衛門堰



MAP E-4

【所 在】安曇野市、松本市
【築 造】貞享2年(1685年)
【管理者】長野県勘左衛門堰土地改良区

奈良井川の小麦淵(松本市島立)から取水し、梓川を横断して安曇野の中央部から万水川に至るまで、等高線と平行に流れる横堰です。安曇郡の代官二本勘左衛門らが1662年に着手し、水路勾配の管理や河川の横断等に当時の技術を駆使し、23年後の1685年に完成しました。梓川の横断部は大雨のたびに流出しましたが、井掛(現在の土地改良区)が中心となって復旧し、現在までその流れを繋いでいます。



5 しかせき えんとうぶんすい 四ヶ堰 円筒分水



MAP E-4

【所 在】塩尻市
【築 造】昭和9年(1934年)
【管理者】松本市奈良井川土地改良区

松本市芳川地区の村井町、小屋、野溝、平田の旧4村をかながいする用水路です。塩尻市堅石地籍の奈良井川右岸から七ヶ堰として取水した後、奈良井川左岸の三区堰を分水後、長野道塩尻北インター横の円筒分水まで、約3.2kmを流下しています。円筒分水は、県内でも貴重な円形の分水施設で、昭和9年に初代が完成し、現在の施設は昭和20年代半ばに改修された2代目です。



2 あずさがわとうしゅこう 梓川頭首工



MAP E-3

【所 在】松本市
【築 造】昭和25年(1950年)
【管理者】中信平土地改良区連合

平安時代以降、梓川から取水する幾つもの堰が築かれてきましたが、僅かな水をめぐり水争いが繰り返されていたため、昭和6年に複数の堰を統合して取水する赤松頭首工が造られました。しかし、土砂の堆積などで十分な取水が困難になり、昭和25年、上流に県下最大の取水量を誇る梓川頭首工が新設されたことで、中信平は水稲、りんご、レタス、スイカ、長芋などの一大産地へと発展しました。



4 やばらせき 矢原堰



MAP E-4

【所 在】安曇野市
【築 造】承応3年(1654年)
【管理者】安曇野市矢原堰土地改良区

犀川に水口を求め、穂高神社先の欠ノ川まで等高線に沿って流れる横堰です。1654年、矢原村(安曇野市穂高矢原)の庄屋臼井弥三郎は、度重なる失敗にもめげず松本藩に建設許可願いを出し続け、不屈の精神をもって開削・通水を成し遂げました。この成功は、横堰の先駆けとして後の新田堰、勘左衛門堰、拾ヶ堰などに引き継がれ、不毛の原野は米どころへと変貌を遂げました。



6 みすずこ 美鈴湖



MAP E-4

【所 在】松本市
【築 造】慶長2年(1597年)
【管理者】松本市

安土桃山時代に信濃国松本藩によって築かれた人造湖で、古くは「芦の田池」と呼ばれていましたが、1953年に美鈴湖と改名されました。湖の形状が鈴に似ていることや、信濃の枕詞「美簀(みすず)かる」に由来するなどの説があります。戦後の食糧増産期には、用水不足が深刻化したことにより大改修が行われ、現在では250haの水田を潤しています。



7 ごかようすい 五ヶ用水



MAP D-4

【所 在】安曇野市
【築 造】天保3年(1832年)
【管理者】五ヶ用水水利組合

高瀬川を水源とする内川用水から分水し、旧5村の水田を潤す延長12kmの水路です。目下の犀川には豊富な流れがあるものの段丘上には水が無く、雑穀や芋しか栽培できなかったため、庄屋茂左衛門が家財や庄屋の役目も放棄し藩に訴え続けた結果、1831年に工事に着手することができました。山裾の斜面を掘り、谷を越えるための橋を何ヶ所も造り、わずか7ヶ月余りで完成させました。



9 ちかとういけ 千鹿頭池



MAP E-4

【所 在】松本市
【築 造】貞享2年(1685年)
【管理者】神田水利組合

江戸時代初期に築かれた農業用ため池です。当時、旧神田村が諏訪高島藩の飛び地とされ、隣接する松本藩の領地内から水を引くことができなくなったために築造されたと伝えられています。ため池の隣には、1714年造営の千鹿頭神社が奉られ、朱塗りの鳥居はため池との景観を織りなしており、周辺の遊歩道を歩く多くの人々を楽しませてくれます。



11 かみいくさか ようすいき 上生坂の揚水機



MAP D-4

【所 在】生坂村
【築 造】大正元年(1912年)
【管理者】上生坂耕地整理組合

生坂村は、犀川沿岸にわずかな平地があるものの、村のほとんどが急傾斜地です。水田開発は村民の悲願でしたが、農地にできる土地が高台にあり、当時の技術では実現されませんでした。そこで明治の末期、「県下初の揚水機」が設置されました。当時の原動機は蒸気機関の歯車伝導で、燃料は石炭を使用しました。大正2年6月5日、大勢の人に見守られる中で行われた試運転は感動的だったそうです。



8 はたせき 波田堰



MAP E-3

【所 在】松本市
【築 造】明治8年(1875年)
【管理者】東筑摩郡波田堰土地改良区

高台に位置していたため水源が乏しく、江戸時代までは高い年貢に苦慮していましたが、村の惨状を嘆いた庄屋の波多腰六左が私財を投じ、明治2年、開削工事に着手し、明治8年に完成を遂げました。現在では、上流部に遊歩道や四阿も整備され憩いの場となっており、地域住民が水に親しむイベントや保全活動が行われているほか、小水力発電施設も設置され、環境学習にも活用されています。



10 みどり湖



MAP F-4

【所 在】塩尻市
【築 造】昭和27年(1952年)
【管理者】塩尻市

昭和27年に築造された農業用ため池で、当時、向坂溜池と呼ばれていました。夏はボートが浮かべられ、冬には結氷した湖面をスケートリンクとするなど、観光地としての利用も多くなってきたことから、観光協会の公募により、「みどり湖」と呼ばれるようになりました。湖畔に咲き誇る水芭蕉も美しく、四季を通して親しまれています。

